

*

『音で心が楽になる』

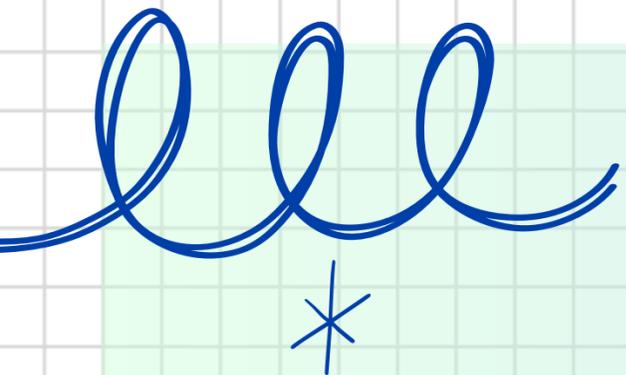
音楽や表現活動を通じた
原体験の創出
自立・就労支援事業

佐久間 玲奈 Sakuma Rena



*

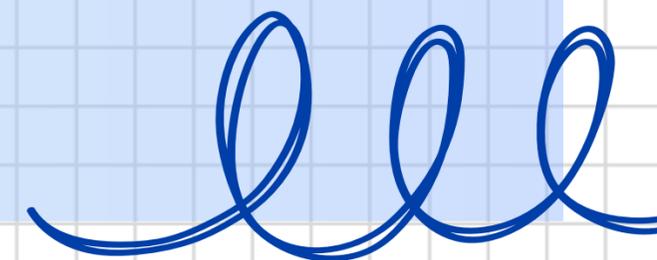


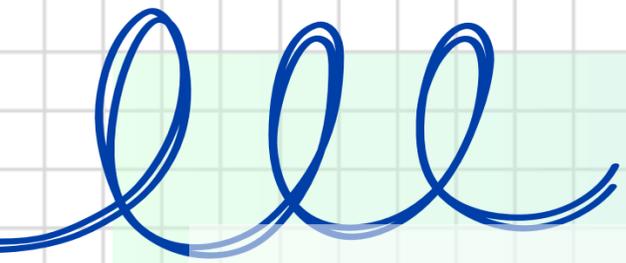


自分の経験をもとに…



既存の福祉制度から
取りこぼされる
当事者の支援がしたい





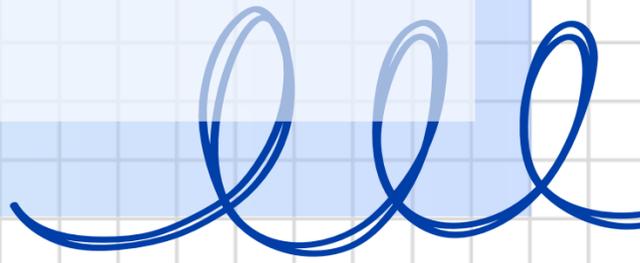
なぜ、この事業に取り組みたいか

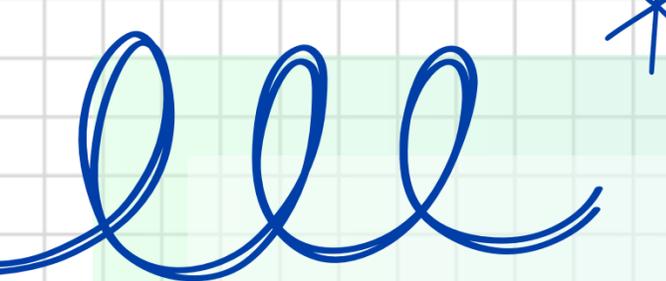
- ①自分が引きこもり当事者だった
- ②音楽の表現活動と福祉の仕事の経験
- ③支援を受けても生きづらさを抱える当事者が存在

既存の支援制度、施設に疑問を持つように…



* 必要な支援を必要な人に届けたい思い *





* 事業の対象者 *

- ① 既存の福祉制度の活用に至っていない社会的マイノリティを抱える若者
(引きこもり・精神障がい・生活困窮・LGBT等)
 - ② 既存の福祉制度を利用しているが合わないと感じている当事者
 - ③ 生きがいを求め、活動したい希望がある当事者
- 

当事者のニーズは複雑・・・



色々な生きづらさ
の要因がある
どれも支える必要が...

課題と既存の支援

色々な「生きづらさ」から、既存のサービスが使えない・合わない当事者がいる
当事者の複雑な要因を支えるよう、既存の制度は作られていない

例えば・・・

当事者の思い

既存の支援



地域にある就労支援
は単純作業しか
ないなあ

仕方なく、住んでいる地域のB型事業所を利用
自分の能力や特性にあった支援先がない

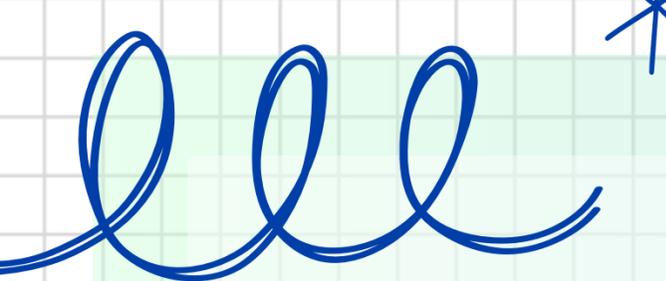


ひきこもりがちで
寂しいけど、
どうしたらいいのかわからない

親が心配で支援の会へ参加するが、
家族の焦りが強く、本人が孤立
本人は対人不安が強いが、スモールステップ
を踏める場所がない

こうして、当事者がある制度で我慢する・サービスを使えず取りこぼされてしまう…





他にも様々な課題が…

- そもそも、生きがい作りに取り組む事業者が少ない
- 閉鎖的な地域も多く、当事者に差別的要素が存在する
- 社会資源が少なく、自由にサービス選択できない
- 当事者は複雑な状況から、地域でより孤独を抱えやすい

よって…



ソリューションとプロダクト

原体験（生きがい）作り・柔軟な支援が必要

① 原体験（生きがい）作り

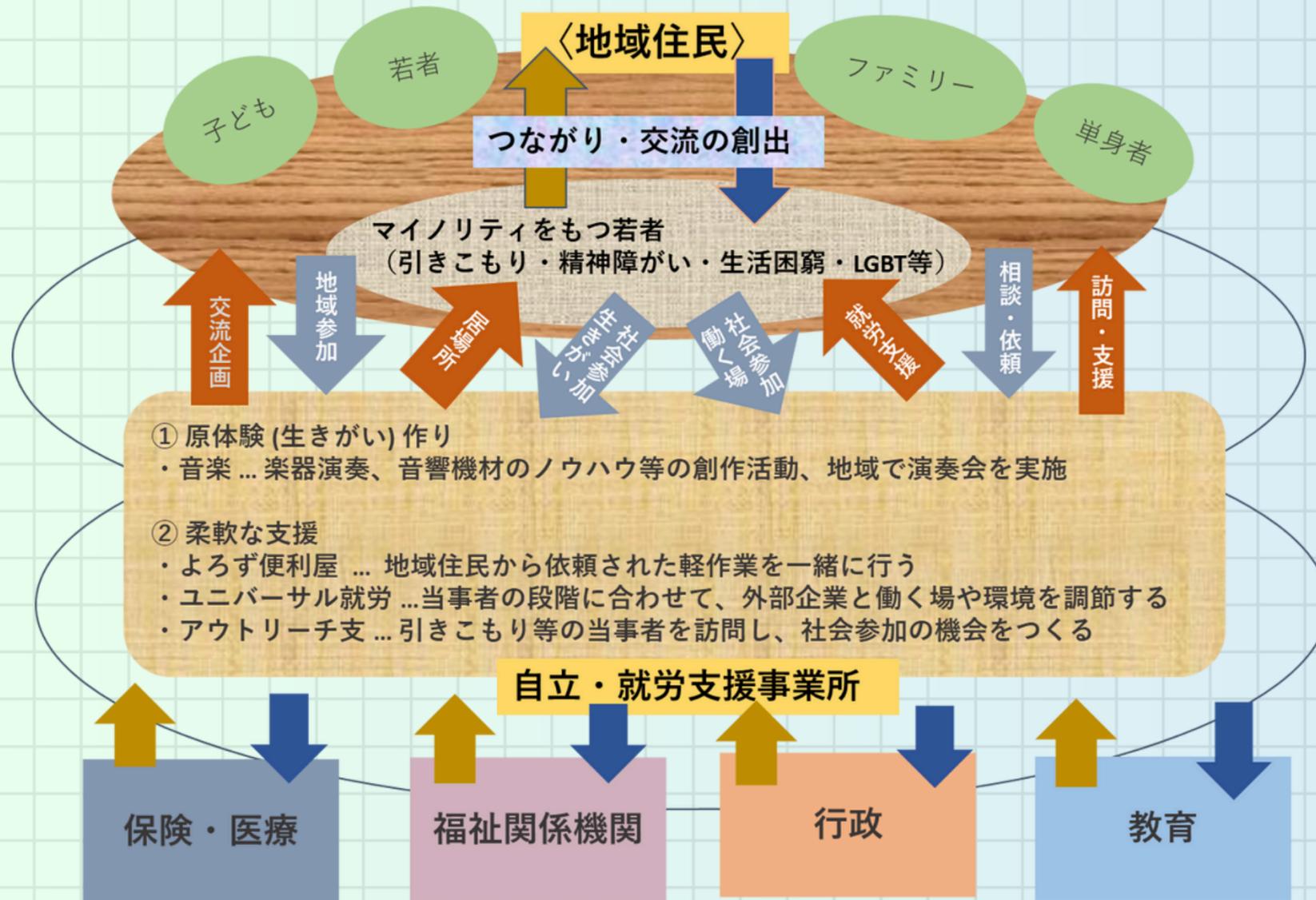
- 音楽 … 楽器演奏、音響機材のノウハウ等の創作活動、地域で演奏会を実施

② 柔軟な支援

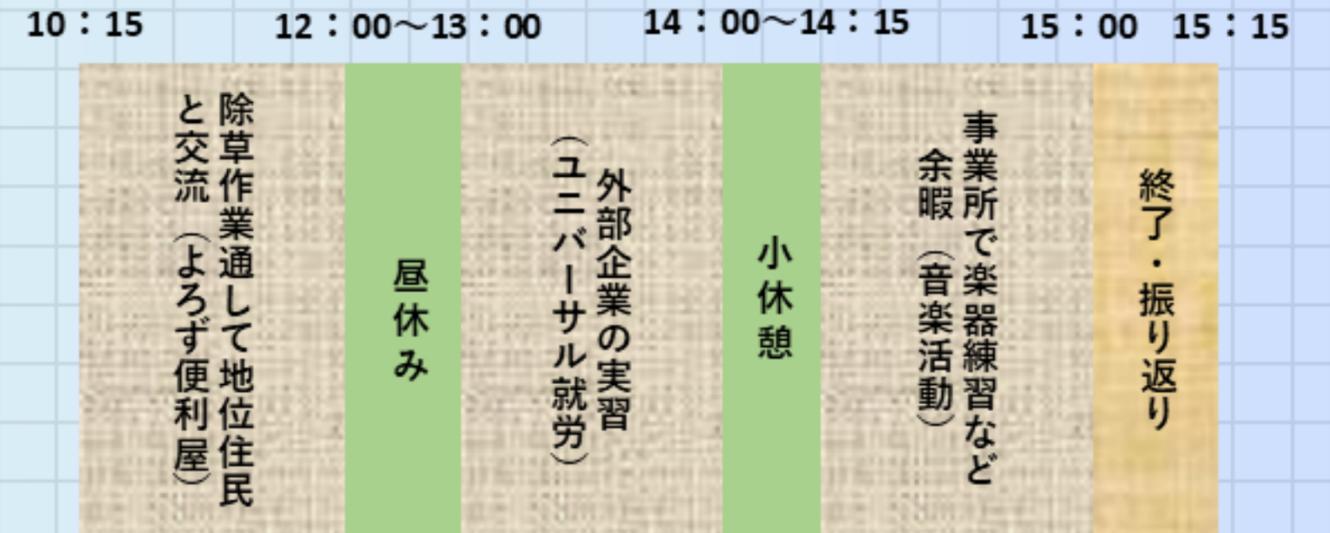
- よろず便利屋 … 地域住民から依頼された軽作業を一緒に行う
- ユニバーサル就労 … 当事者の段階に合わせて、外部企業と働く場や環境を調節する
- アウトリーチ支 … 引きこもり等の当事者を訪問し、社会参加の機会をつくる

＊ プロダクトにおける事業モデル

事業モデル図



サービス利用者 プログラム例



”
BRONZE道心で
当事者が活動している様子。
演奏だけではなく、音響などの
技術やチェック準備など
へも参加。



ソリューションとプロダクトによって生まれる価値

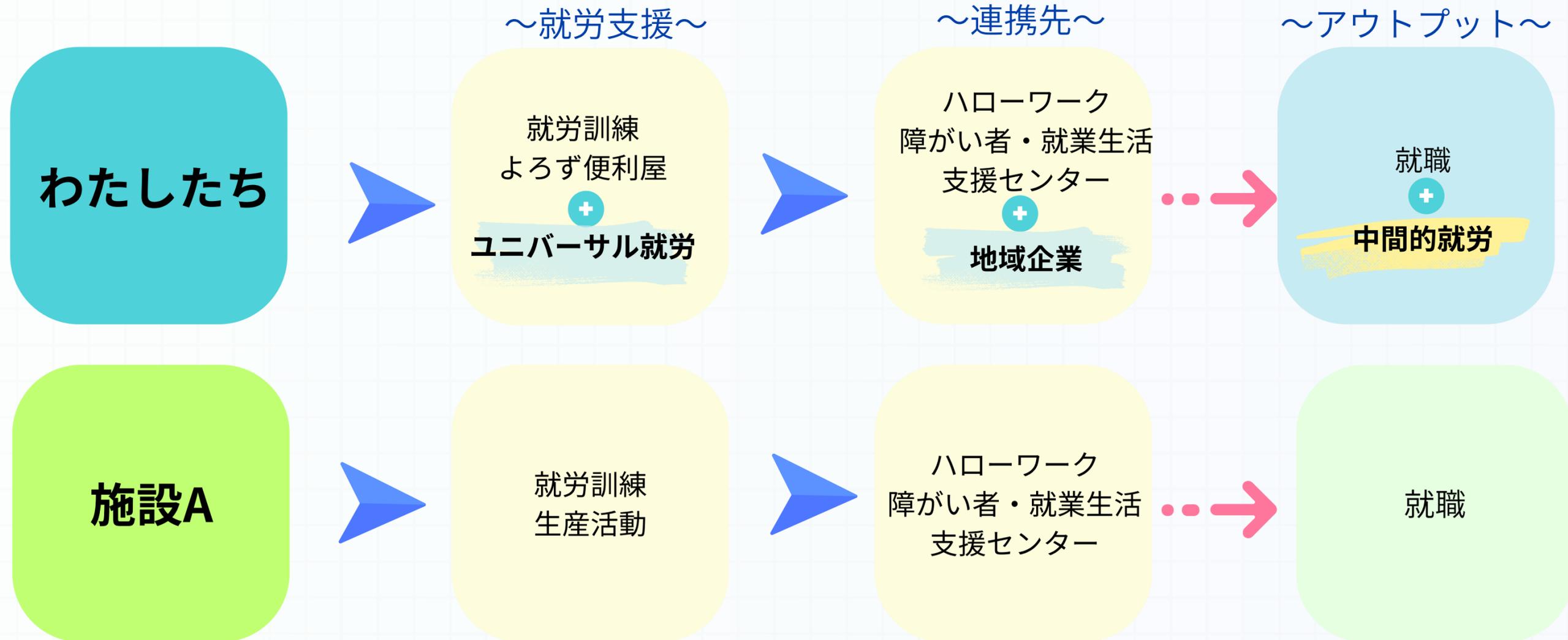
当事業を行うことで、当事者が既存の支援制度では得難い
他者と感動を分かちあい、地域と繋がる経験ができる



秋田県内の社会的孤独・孤立が解消され、
地域のインクルージョン推進を図る

就労に繋げる仕組み①

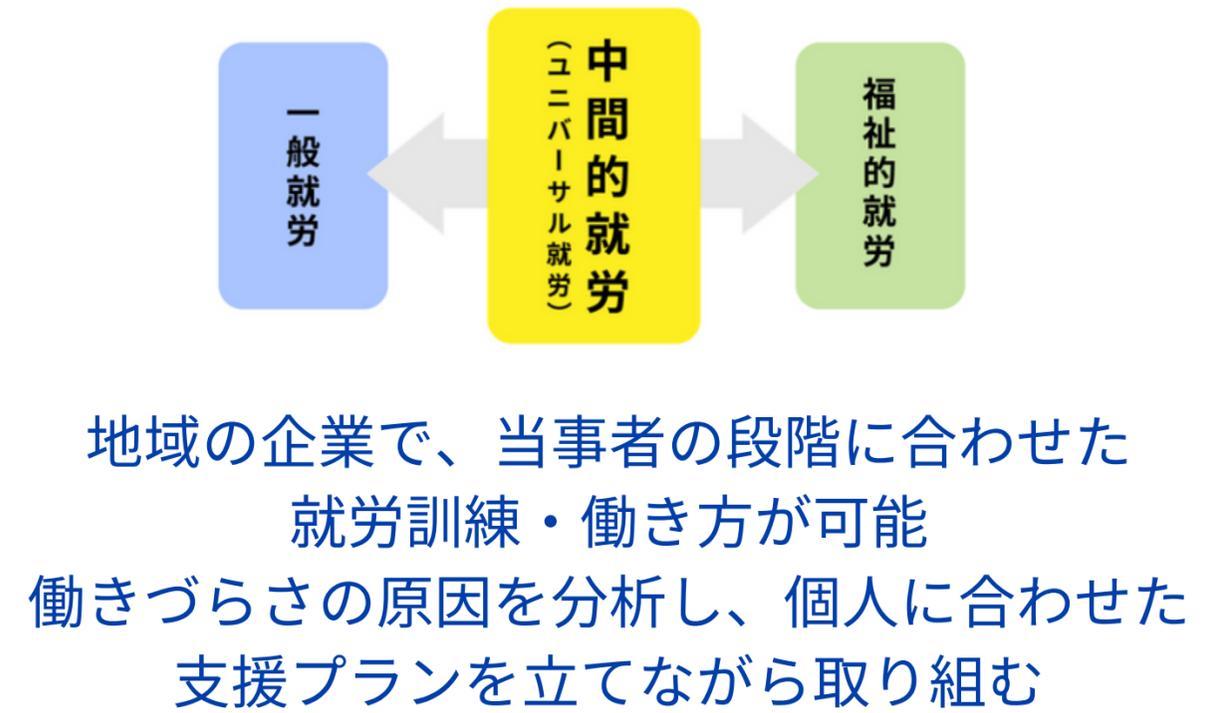
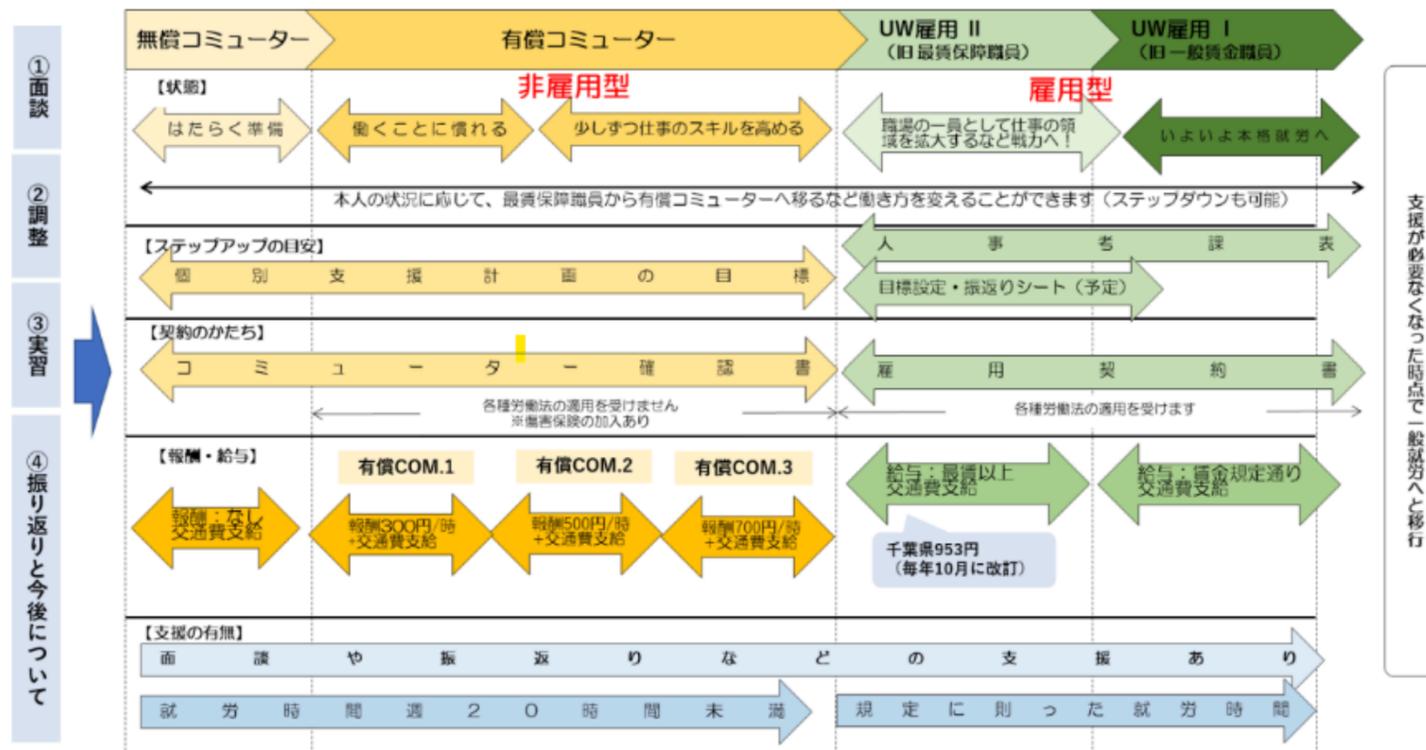
当事業は、ユニバーサル就労を+することで、就労支援の幅を広げていく



就職に繋げる仕組み②

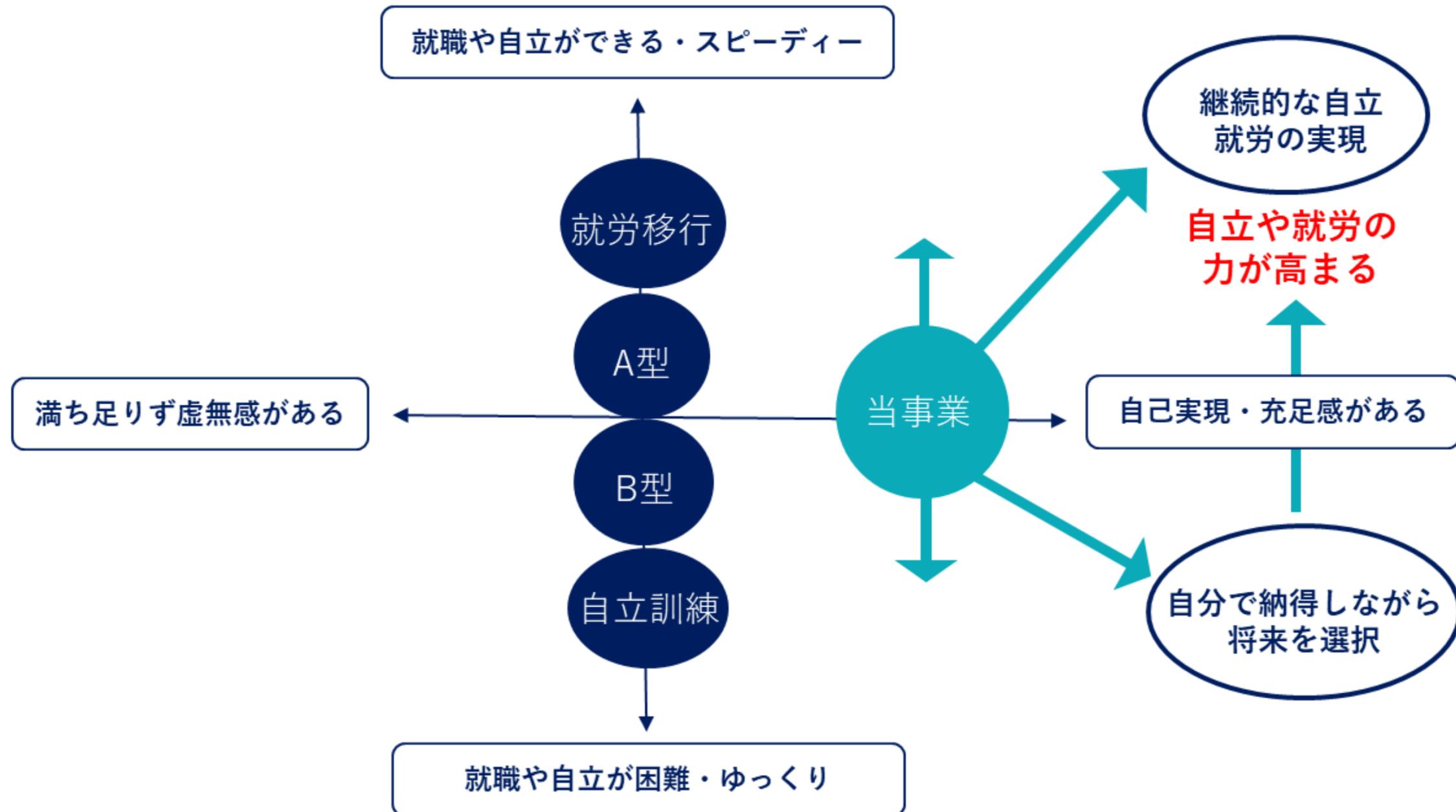
ユニバーサル就労とは… 『中間的就労』

障がいの有無にかかわらず、働きづらさを抱えている人たちが就労できることを目指す概念



(引用元：生活クラブ風の村のユニバーサル就労)

競合と差別化① ポジショニングマップ

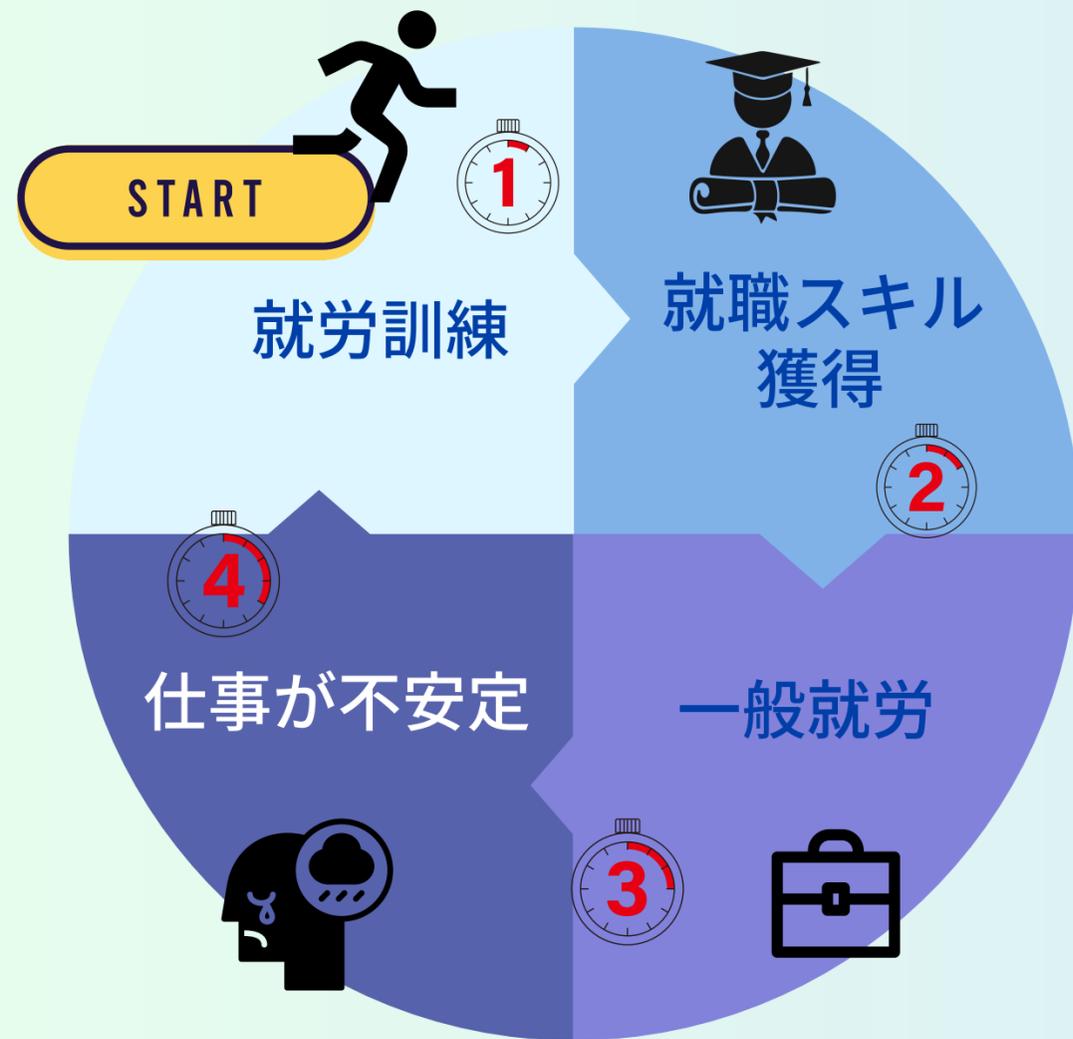


競合と差別化② サイクルの比較

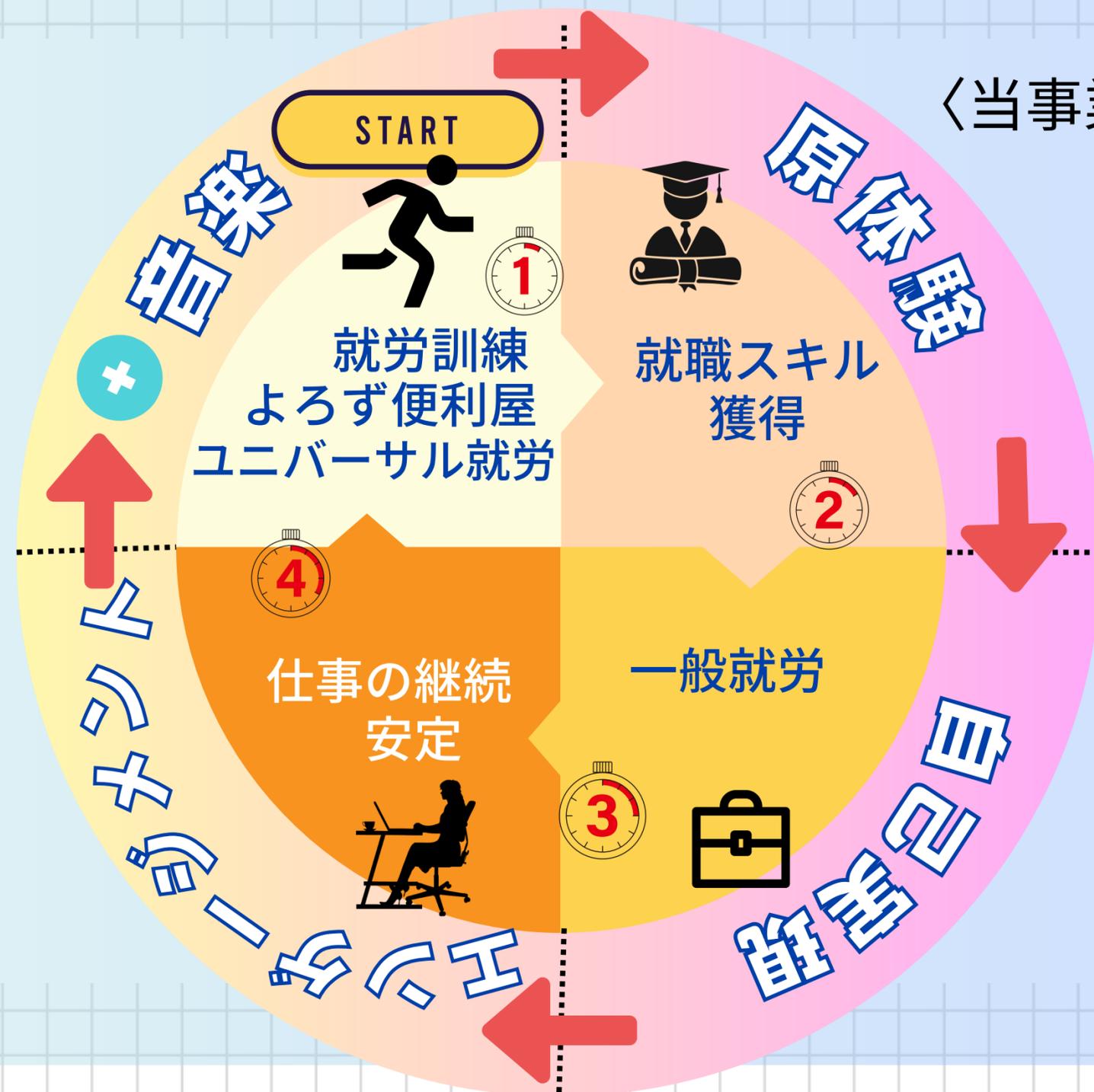
柔軟な就労プログラムと原体験（生きがい）の両輪

就職に特化しているが…充足感は少ない

〈既存の事業所〉



〈当事業所〉



競合と差別化③ まとめ

①既存の事業所では注目されていない

『原体験（生きがい）』

を作り出すことができる 今までになかった施設

②柔軟な就労プログラムも実践し、就職を目指せる



当事者が本当に幸せになれる施設である





S
(強み)

- 事業に協力する仲間がいる (BRONZE道心)
- 音楽事業ノウハウやコーディネーター経験が豊富
- メンバーが便利屋さんの副業で業経験がある
- 応募者が就労支援事業所の管理経験があり、運営法を熟知



W
(弱み)

- 自己資金や起業経験がなく、運営に不安がある
- 音楽・便利屋さん部門は従メンバー、福祉部門は代表者の専門性となるため、各部門が俗人化しやすい

O
(機会)

- 地域に既存の制度から取りこぼされた利用者を支援する先がない
- 秋田県は、自殺率が高いなど社会的課題が多く、当事業のニーズは高い

T
(脅威)

- 資本力のある大手企業が参入する
- 事業が地域にニーズに合わず、利用者がこない



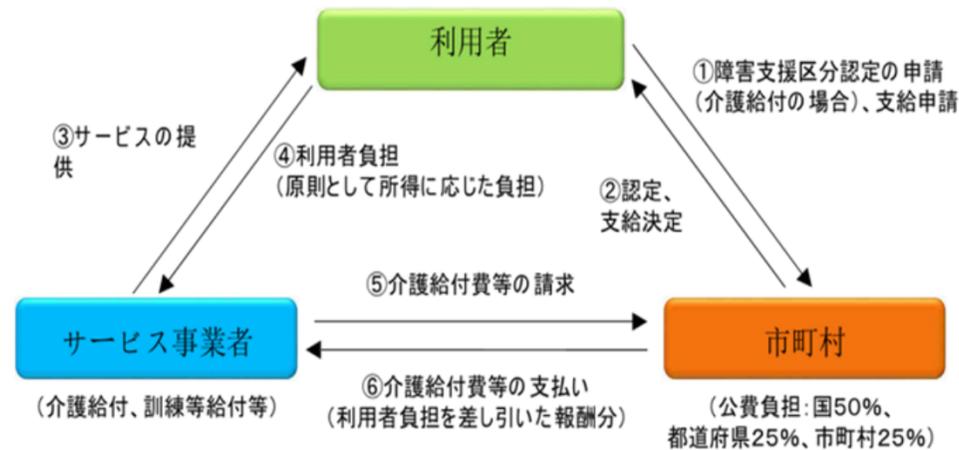
収益構造と市場規模

～就労継続支援 B型事業を予定～

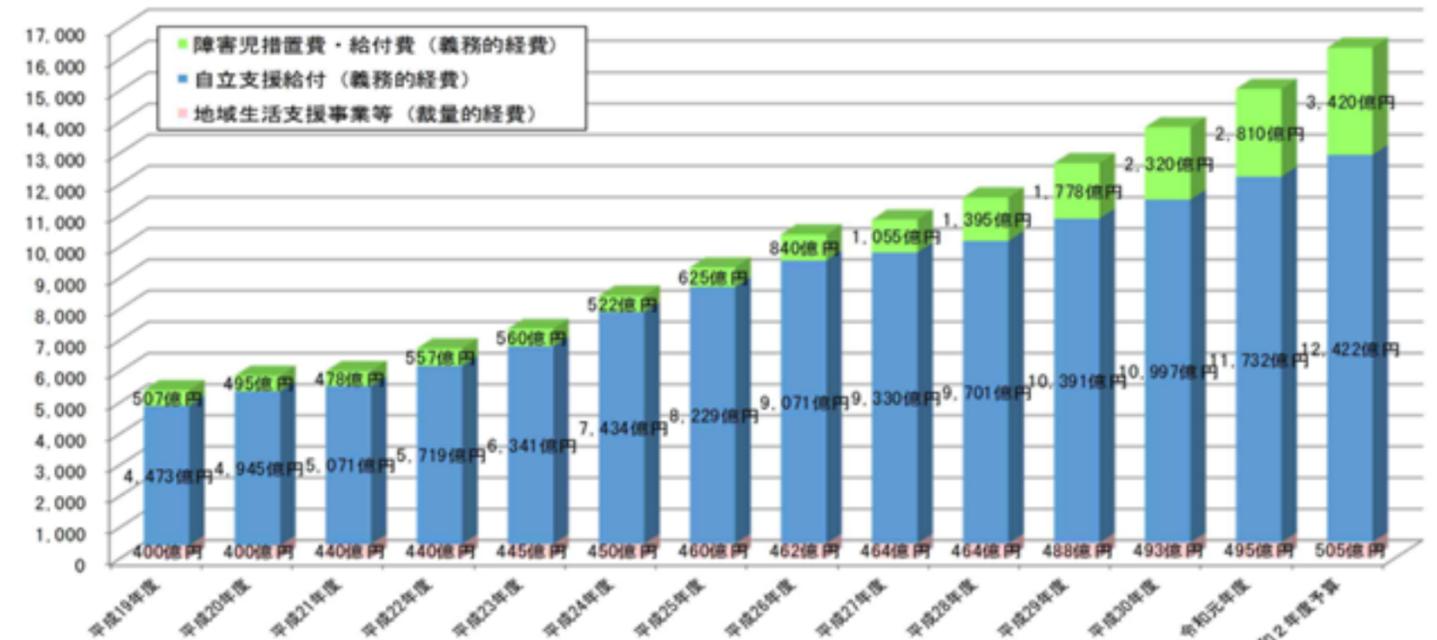
障害福祉サービスによる報酬が、事業の主な収入となります。就労支援の作業として、よろず便利屋業務を行い、地域住民へ時間・作業ごとの料金にて サービス提供を行い収益を獲得、当事者に売り上げを工賃として支払います。

- 障害福祉等サービス報酬とは、事業者が利用者に障害福祉サービスを提供した場合に、その対価として事業者を支払われるサービス費用をいう。
- 障害福祉サービス等報酬は各サービス毎に設定されており、基本的なサービス提供に係る費用に加えて、各事業所のサービス提供体制や利用者の状況等に応じて加算・減算される仕組みとなっている。

【障害福祉サービス等報酬の支払いの流れ(概要)】



〈障害福祉サービス等予算の推移〉



出典：障害福祉分野最近動向

障害福祉サービス関係予算額は13年間で約3倍に増加しており、全国的に社会的ニーズが高い

収益構造②

当事業においては、障害福祉サービスによる報酬が主な収入
就労支援の作業として行うよろず便利屋業務については、地域住民へ時間・作業ごとの料金にてサービス提供を行い、収益を獲得し、当事者へ工賃として配分する

例：就労継続支援B型事業 障がい福祉サービスの報酬

1日1名利用 = 5900円

5900円 × 10～15人 × 20日 = 月/1,180,000円～1,770,000円

〈よろず便利屋に関して〉

地域住民の困りごとへ柔軟に対応し時間や作業で料金を設定。

- ・ちょっとした困りごと：電球交換、家事、買い物など
- ・大規模なお手伝い：引っ越し作業、家具組み立てなど

※全国平均2000～3000円/1hであるが、今後地域の状況に合わせて料金設定を行う

ステートメント・メッセージ

いまの私（わたし） だから この事業ができる

当事者だったからこそ。

私自身が、音楽の体験を通して感動したり、他者とかけがえのない時間を共有したことで、自立に向かう勇気や心が育っていった。

原体験は、孤立をはねのけ人生を生き抜く強みになる。
その事実を、この事業を通して多くの当事者へ伝えたい。

